

立命館 災害復興支援室 瓦版

かわらばん

【第14号】2013年1月11日発行

【後方支援スタッフ派遣 報告】

第14便

岩手県大船渡市・宮古市にて

災害復興支援室が企画・運行する「後方支援スタッフ」派遣（ボランティアバス）第14便が12/21（金）から12/27（木）の日程で岩手県大船渡市と宮古市へ2チームに分かれ訪問しました。

第14便（大船渡）活動レポート

大船渡チームは、学生8名、引率職員2名が参加しました。

活動は23日（日）、24日（月）の2日間は、岩手県遠野市のNPO法人「遠野まごころネット」と大船渡市の「大船渡アクションネットワーク」が共同で取り組む企画「サンタが100人やってきた！」プロジェクトに参加。サンタの衣装を着て町を歩きプレゼントを配布し、クリスマスの楽しいひとときを演出。公民館で地域の子もたちと交流しました。

25日（火）からは仮設住宅の集会所を舞台に、クリスマス企画や子どもたちとカルタなどのゲームをする企画を実施しました。

<大船渡：派遣学生のコメント>

印象的だったこと：現地の親御さんの「本当はこういう子供たちののはしゃぎまわる楽しい笑顔は、外でみられるはずなんだけどね。」という言葉です。

クリスマス企画を屋内で実施した際に耳にした言葉でしたが、現地では学校のグラウンドなど広いスペースに仮設住宅が建ち、人々が生活を営んでいる中で子供たちがのびのびと外で遊べない現状をこの言葉から痛感しました。（2回生・Tさん）



第14便（宮古）活動レポート

宮古チームは、学生8名、引率職員3名が参加し、22日（土）に宮古観光協会主催の防災学習プログラム「学ぶ防災」で津波被害と防災について学び、23日（日）より宮古市社会福祉協議会の協力を得て、市内の仮設住宅や公民館等のコミュニティスペースでクリスマスカードや京都産の北山杉の板を使った手作り表札づくりのワークショップ、ゲームで遊ぶ企画を実施し、住民の方々と一緒にクリスマスを楽しみました。

<宮古：派遣学生のコメント>

印象的だったこと：これまで被災地の現状を知る方法は報道のみだったのですが、実際に現地を訪れてみると、報道されている事だけが全てではないこと、地域によって様々な問題点があることを知ることができました。実際に現地に行き自分の目で見るまでは、被災があったことを知っているようで実は何も知らなかったということがわかりました。（4回生・Oさん）

今後の派遣について思うこと：今回の活動では、岩手県宮古市での活動がほとんどでしたが、大学として他の被災地にもぜひ足を運んで欲しい。瓦礫やヘド口の撤去がおおよそ済んだ今からが本当のボランティアの始まりだと思いますので、大学としても継続してこのプログラムを実行していきたいです。（4回生・Yさん）



今後の派遣予定

後方支援スタッフ派遣により岩手県を訪れた学生・職員は、第14便を終了した時点で延べ200人を超えました。

今後も災害復興支援室では、教育・研究を通じた復興への貢献に取り組んでいきます。

2013年2・3月 春休み期間の後方支援スタッフ派遣について

2月は遠野市、大船渡市への派遣を予定、3月も派遣を計画中です。
派遣概要・募集受付は災害復興支援室ウェブサイト・facebookで公開します。

後方支援スタッフ引率職員の声 学内に発信

後方支援スタッフ派遣の引率として現地に同行した職員のうち、中堅職員代表として小村昭子さん（人事課）、若手職員代表として古澤秀晃さん（管財課）の2名が、部次長会議（11/29）で報告を行い、活動を通じて学んだ事や、復興支援の継続の必要性について報告しました。

また、UNITAS 441号「+Rな人」コーナーでは「学生とともに被災地に奔走 変わった仕事への意識」と題した記事が掲載されています。記事では引率に参加したきっかけや、引率で訪問した被災地の状況、学生との交流を通じ感じたことを語っておられます。

記事はUNITAS 441号の巻頭に掲載



引率担当職員・ひきつづき募集中!!

ボランティアバス各便での学生引率（移動サポート、滞在中の安全管理）を担当する専任職員を引き続き募集します。

現地との調整は災害復興支援室と現地受け入れ関係者で実施します。

関心のある方は、災害復興支援室まで問い合わせてください。

【告知】上映および対談

<立命館大学朱雀キャンパス公開講座>
シネマで学ぶ「人間と社会の現在」

映画が表象する「関係性の様態」を読み解きながら、「人間と社会の現在」について考える機会にしたいと願い企画されている公開講座。今回はそのシリーズ14として「1.17から3.11へ、そして……。回復（レジリエンス）する力」というテーマのもと、震災に関する映画上映とゲストを招いた対談が行われます。回復や復興とは何かについて世代を超えて、世代を繋げて考えることができるほどに時は経過しました。1.17と3.11をつなげ、回復（レジリエンス）という言葉とともに、予想される次の大震災の日（未来）のことも視野に入れて考えつづけていければと開催されます。ぜひご参加ください。

1月19日（土）
『その街の子ども 劇場版』
ゲスト：渡辺 あやさん（脚本家）
聞き手：中村 正 立命館大学教授
2月16日（土）
『傍 - かたわら3月11日からの旅 -』
ゲスト：村本 邦子さん（立命館大学教授）
聞き手：中村 正 立命館大学教授
3月9日（土）
『生き抜く 南三陸町 人々の一年』
ゲスト：井本 里士さん
（MBS 毎日放送「VOICE」編集長）
聞き手：団 士郎 立命館大学教授

<時間>
13：30 開演（13：00から開場）
15：30～16：30 対談
上映時間により多少異なります。
<会場> 朱雀キャンパス5F大講義室
<鑑賞料> 一般600円、立命館大学生・教職員300円、京都シネマ会員300円
<共催> 京都シネマ
<企画協力> 立命館大学人間科学研究科
<協力> トランスフォーマー / いせフィルム / MBS
<企画コーディネート>
中村正 立命館大学産業社会学部
・応用人間科学研究科教授

これからの主な取り組み

1/21（月）岩手県大船渡市との定期協議

災害復興に向けた連携協定を結んだ岩手県大船渡市との定期協議会を開催。昨年4月の協定締結から9ヶ月を経て、これまでおよびこれからの取り組みについて協議。

2月中 後方支援スタッフ派遣 15便・16便

1/18（金）～2/18（月）応用人間科学研究科「団士郎家族漫画展」

2/10（日）応用人間科学研究科「シンポジウム：東日本大震災と対人援助」

<それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。>

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています



また1/18（金）から2/18（月）まで「団士郎家族漫画展」、2/10（日）には「シンポジウム：東日本大震災と対人援助」が開催されます。ぜひこちらにもご参加ください。詳細は応用人間科学研究科震災復興支援プロジェクトHPページにて。

<http://www.ritsume.ac.jp/acd/gr/gsshs/sinsaiproject.html>

災害復興支援室 facebook

500「いいね！」を達成

立命館災害復興支援室 facebook ページが、おかげさまで去る12/3（月）に500「いいね！」を達成しました！

災害復興支援室では今後も、大学として教育・研究を通じた復興への貢献を目指し、関西・京都より活動の継続と情報発信を頑張ってお参ります。今後も引き続き応援をよろしくお願ひします。

<http://www.facebook.com/fukkoR>



【予告】3.11 追悼企画

「いのちのつどい」開催

東日本大震災直後から、立命館学園ではすべての学校・校友・父母組織をあげて、被災学生・校友の支援に取り組むとともに、災害復興支援室を設置し、学生・教職員によるさまざまな自発的取り組みをサポートしてきました。

2011年3月の震災発生以降、立命館が「わたしたちができること」として何をしてきたのか、そして今後何をしていきたいのかを発信する場として、2013年3月11日をとともに過ごす場を設けます。

企画の詳細は、大学公式ホームページ、災害復興支援室ウェブサイトにて随時公開していく予定です。

3.11 追悼企画 概要

<催し名>
いのちのつどい
- 心によりそう、これからも - （仮）

<企画概要>
目的：東日本大震災からの復興に関心を寄せる立命館関係者が集い、追悼の時を共に過ごし、ネットワーク形成・交流・情報共有を行います。

対象：学生、教職員、一般の方
日時：2013年3月11日（月）10:00～終日
場所：立命館大学衣笠キャンパス、びわこくさつキャンパス、朱雀キャンパス、現地
内容：おじゃっこタイム（成果報告）
炊き出し・防災訓練
追悼のとき（献灯、献花、黙祷）
学生企画（場の開放）



編集後記

明けましておめでとうございます。震災から丸2年を迎える本年。支援室ではますます復興支援に関する取り組みを行ってまいります。今年も宜しくお願いします。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第14号】

発行人・編集 立命館災害復興支援室

075-813-8130（総合企画課内）

メール 311fukko@st.ritsume.ac.jp

HP <http://www.ritsume.ac.jp/rs/20110311/>